

トルコ共和国文化省



トルコの時代

2003 日本におけるトルコ年
Turkish Year in Japan, 2003

現代絵画展

工芸とイズニックタイル展

～伝統を今に引きつぐ魅力にせまる 幻のイズニック～

2003年9月23日(火)～10月5日(日)

Contemporary Turkish
Painting Exhibition
from the collection of
the Turkish Ministry
of Culture,

Exhibition of
Turkish Traditional
Handcrafts and Iznik
Tiles



開館時間：午前9時～午後5時
(入館は4時30分まで)

休館日：9月29日(月)

入館料：無料

主催：渋谷区立松濤美術館、
駐日トルコ共和国大使館

ゴールデン・ホーン・タイプ 白釉藍彩壺

渋谷区立松濤美術館
The Shoto Museum of Art

トルコ共和国文化省

現代絵画展

工芸とイズニックタイル展

～伝統を今に引きつぐ魅力にせまる 幻のイズニック～

今年「2003 日本におけるトルコ年」を記念して、松濤美術館では「国際漫画コンクール」「トルコ中央銀行コレクション展」を開催してきました。3回目を数える本展は、トルコ共和国文化省の協力のもと、現代トルコの一面を紹介する展覧会を開催します。今回は現代絵画展と工芸展を同時開催します。

オスマン・トルコ（1299～1922年）末期から、西欧への留学が奨励され、近代化の父、ケマル・アタテュルクによる急激な近代化に加速され、細密画（ミニアチュール）の伝統を長らく継承してきた絵画の分野でも、激しい変革が起きました。絵画展では、西洋化しつつも、なおトルコの歴史を感じさせるハリル・アクデニズら、現代を代表する作家35人の油彩・アクリル作品を展示します。

工芸展は、さらに2部門からなり、伝統手工芸とイズニックタイルを展示します。人々に愛用され現在もなお、作られ続けている伝統的な工芸品を展示します。レターナイフとしてだけでなく、本は買ってから製本するという習慣があるトルコでは、本を読むのに使われる銀製の小型ナイフなど、トルコならではの工芸品を紹介します。

あわせて、トルコ国内の歴史的建造物に多用され、世界に名声を誇ったものの、中国や西洋陶磁の流行などにより衰退し、今やいまだ全容が明らかとされていないイズニックタイルの魅力を紹介します。

東西文化の交流地点であり、華麗なる歴史の足跡を色濃く残すトルコの、いまなお続く素朴な伝統をご覧いただき、現代トルコへの理解をより一層深めていただく良い機会となれば幸いです。

ギャラリートーク

日時／9月28日(日) 午後2時より

担当／当展担当学芸員

美術映画会

日時／9月27日(土) 午後2時～3時

・『京都の魅力 美のすべて』シリーズより
「祇園祭」

・『近代美術・実践と論争』シリーズより
「グリーンバーグの美術批評」

日時／10月5日(日) 午後2時～3時

・『京都の魅力 美のすべて』シリーズより
「京料理・京菓子」

・『近代美術・実践と論争』シリーズより
「スミソンとセラーモダニズムを超えて?」

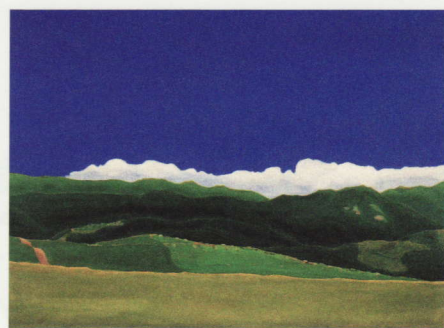
次回予告

会期／10月14日(火)～11月24日(月)

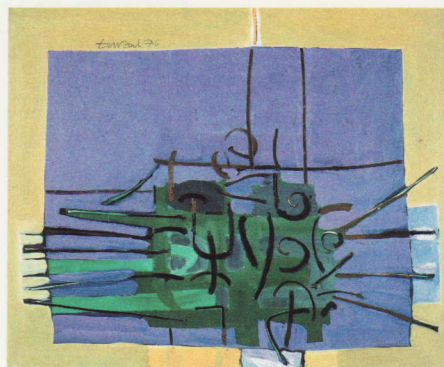
「合田佐和子 映像 -絵画、オブジェ、写真-」



スリ・アパチュエ《おとけ者の楽しみ》



バイセル・ギユナイ《クズルアーチ游牧地からの眺め》



アドゥナン・トゥラニ《静かな海を聴いている》



黒檀のナイフ



土器



ケフィエ・エフェの手芸作品 生命の樹



銀製首飾り



渋谷区立松濤美術館

The Shoto Museum of Art

〒150-0046 東京都渋谷区松濤 2-14-14 TEL.03-3465-9421

■JR 渋谷駅下車 徒歩 15 分 ■井の頭線 神泉駅下車 徒歩 5 分